

貉屋敷 貉の妖怪談義

第七回 妖怪「ぬらりひょん」

わしら妖怪、妖怪ゆーても人によって定義が異なるからややこしいんやけんご

まあ、それは神棚にでも上げといてやな

妖力を使い、人を妖かす存在とばかり思われとるけど、実際は妖力使えるんは、ごく少数やし、その妖力かて、超能力にちよつと毛がはえとるくらいや

今回は、その妖力が使えんで、意外にも有名になつとる妖怪の話しよ
うか

水 先生の御陰で、すっかり悪の大将みたいになつとるぬらりひょんちゆうじいさんの妖怪や。木先生が、どつからヒント得たかはしらんけんどな、そのじいさん妖怪は実はなんも妖力使えんのや

じいさん妖怪、もとは普通のじいさんや

戦乱の世が去つてな、徳川の殿さんの天下になると、いままでせいぜい港で沖給仕の大将やつとつたよつな流通関係の商売が一拳に花ひらいたんや。え？大船建造禁止令が出てからあかんよつになつたはずやて？そりや、歴史の先生の方が間違つとる

徳川の時代になつて、何が一番変わったかつてゆーとやね、平地の城下町の発展や

しかも戦争のための城やのうて、行政、まあ政治やな、そのための城下町の発展や

自らは食いもんを生産せん都市の出現や

それまでも、京とか政治機能のある都市はあつたが、京の町のまんな

かに田畑があるくらい、今の都市からはかけはなれたイメージや
ところが江戸を初めとする城下町は全く今の都市の原型といってい
い

その都市機能をささえとるのが流通や

水すら外から入れとったくらいや。なんたら上水とかの地名でいまで
もわかる

上水うちゅうのは今で言う上水道やな。なんと、町中では地下を通し
とったのもある。下の方でも流通はととのとった。うんちとかしっこ
とかは高値で取引されて今のちばらぎ県とかの農家に引き取られとっ
た

ゴミすら町々でまとめて海に運び一定の場所に捨てとったんや。元祖
夢の島やな。今ではその上に沢山の人が住んどる。江戸時代のゴミ捨て
場とは知らんとな

さて、世界で最初に海上ゴミ捨て場を作った江戸の町やけど、町中
に田畑とかない

食いもんはじめ、ゼーんぶよそから運んでこなあかん都市や

陸路でつちゅうのものなかなかむつかしい。大名行列が通る五街道かて、
せいぜい今で言う片側一車線の一方通行や。騎馬同士がすれ違ふ時は、
どっちかが下馬して馬おさえとかんとあかんつちゅう笑い話のような
道や

実は、太古の昔、大和朝廷とかなんとかの時代、この国には幅二十五
間の今で言う高速道路みたいな道が張り巡らされた時期もあったんや。
さすがにアスファルト舗装やない。砂利舗装や。目的は国防やな。阿呆
な大王がおってん。だいおうちやうで、おおきみやで。で、その大王が
支那に喧嘩ふっかけよってな、大負けしおったんや

で、支那が攻め込んでくるかもしれんゆーて大慌てで作った道や

この道の御陰で何万つちゆう軍隊をあっというまに九州に派遣できるようになったんやそんなとき監視任務に徴発されたんが防人やな

どうやら支那は攻め込んでこんらしいつちわかったら、問題になるんはこの立派な道の維持費や。あつというまに民間に払い下げられて田畑や。田畑一反の基準単位は一町や当時の町は間と関係あらへんから、二十五間を割り切れんのやな。で、中途半端な幅の土地が余ることになる。今でもこの中途半端な土地を見つけることで、太古の高速道路を見つれることができるんや

その後、元寇やらなんやらあつたけど、どうせ道つくつたかて無駄に終わる。また、隣国、この場合は国内の国やな、その隣国から攻められる危険もあるつちゆうんで、実に昭和の三十年くらいまでこの国は道の整備を千数百年間放棄しとつたんや

まあ、馬車文化がなかったから、それでんよかった。なまじ戦車とか馬車があるばかりに全ての道は羅馬に通じるとかなんとかゆーて、道ばっかり整備しとつた欧羅巴みたいに何千年も戦争ばっかしとるとこよりよっぽどええ

こんなん、教科書に書いてないやろ

日本の教科書見とつたら、なんやらの役とかゆーて戦争ばっかしとつて、百姓は水ばっか飲んどつたように思えるけど、同じ密度で欧羅巴の戦争書いてみい。百科事典より厚うなるど。日本はやな、圧倒的にのほほんとした時期が長いんや。戦国時代かて、欧羅巴がたまさかのほほんとした時期より戦の数少ないんや。使つた武器は世界一やつたけんどな

いつ、ぬらりひょんでてくんねんって思うとるやろ。こつこついう前提条件を知らんとぬらりひょんを初めとした日本の古史古伝を聞く資格はないんやで、ほんまは

つづく

注釈

皆さんが避難所である「貉屋敷」スレにつぶされているものです
現在連載中 断中です

2007 (c) Copy/Art: MUJINA